

# け や き

## 演じること 生かすこと

大仙市教育委員会 教育長 三 浦 憲 一

大仙市も誕生してから、3年目が過ぎようとしております。子どもたちの「生きる力」を確かなものにする大仙市の学校教育を目指して「共に」「創る」「考える」「開く」の精神のもと、「教えること」「育てること」の調和を求めながら頑張っていました。

大仙の子どもたちが文武両道にわたって大活躍をし、支えていただいた市民の皆様や教職員、PTAの皆様から心から感謝申し上げます。

ある音楽雑誌に歌舞伎俳優坂東玉三郎さんのお話がかかっておりました。その中で、すべてに通じる大切な三つのプロセスを強調されております。

『生きていれば誰でも無意識のうちに「感受」「浸透」「反応」を行っています。たとえ一瞬の出来事でも、この三つのプロセスを経る、人間の自然な摂理なのであります。ところが芝居になると、「感受」「浸透」を落として「反応」だけでやってしまうことがあります。それが問題なのであり、「感受」や「浸透」が欠けると、いびつな演技になります。

学校の授業も芝居と一緒に、ある種“やりとり”があるのではないかと思います。自分自身の中で、また相手も含めた中で「感受」「浸透」「反応」のプロセスが起こっていると思います。教育というのは「話し合う」ことから始まっているのだと思っております。』

歌舞伎俳優のプロとしてこのような言葉に込められている意味は、「感じて受けとめる」「深くしみこむ」「はたらきかけに応じて起こる手応えや態度」を通じて、

様々なやりとりの中から「本物の味を知っていく」ということに繋がっていくように感じます。

「何を知って欲しいのか」「何を考えて欲しいのか」「どんな働きなり行動に結びつけてほしいのか」という「ねらい」なり「発問」をしっかりと用意し、基礎をおさえながら、様々な視点から話し合わせたいものですし、確かなコミュニケーション能力を培いたいものです。おかしな材料や添加物が味覚を麻痺させるように、また、冷凍食品（課題）を単に解凍（解答）だけ求めて使用したのでは、子どもたちそして自分自身の“レーダー”を曇らせてしまうような授業や生活になってしまうのではないかと、自問してみたいものです。

知識や技が蓄えられ、それをベースにたくましく社会に生きる力、即ち活用能力が求められている時代に、この三つのプロセスを経験し子どもたちと夢中になって追求する学びこそ、本物の味になっていくものだろうと思います。そのような力こそ、長い年月を乗り越えて成長し、やがて大仙の「櫻の木」となって育ち続けるに違いないと思います。



## 地域に学ぶ職場体験

# キャリア・スタート・ウィークを終えて

大仙市立大曲南中学校 校長 千田文和

### 1 はじめに

本校では、平成19年度文部科学省指定によるキャリア教育実践プロジェクトとして、2年生34人全員が、地元にある事業所等21か所に1～2人ずつに分かれて、連続5日間の職場体験（キャリア・スタート・ウィーク）を行いました。

### 2 ねらい

- ・望ましい勤労観・職業観を身に付けさせる。
- ・主体的な進路選択のきっかけとする。
- ・働く喜び、生きがいについて考えさせる。
- ・コミュニケーション能力を高める。
- ・社会生活のルールやマナーを学ばせる。

### 3 主な活動の流れ

4月上旬～5月上旬

受入事業所の開拓

(事業所を訪問し趣旨説明、受入要請)

5/7 職場体験受入承諾書の発送

6月上旬 体験先の希望調査及び決定

6/12 正式依頼状及び生徒の履歴書の発送

6/19 講話会「仕事の大切さについて」  
(講師 秋田経済研究所 相沢洋子氏)

6/29 体験先との最終打ち合わせ  
(生徒が各自の体験先へ出向く)

7/2～6 キャリア・スタート・ウィーク  
(9～15時をめぐりおよそ6時間の体験)

7/2 各事業所に宣伝用ののぼり旗の設置  
夏休み中 体験レポートの作成

9/12 体験発表会

9/25 職場体験学習新聞発行  
(家庭、事業所等へ配布)

### 4 生徒のアンケート結果 (一部)

- ・働くことに対するイメージは？

(3つまで回答可)

	体験前	体験後
人のためになる	20人	→ 25人
責任を果たす	19人	→ 25人
生きがいとなるもの	17人	→ 16人
お金をもうける	18人	→ 6人
生活のために仕方なく	6人	→ 3人
遅刻が許されない	5人	→ 5人
疲れる	5人	→ 13人

### 5 保護者、事業所の声 (一部)

- ・仕事の大変さを知るとともに親や先生以外の大人の人たちに一社会人として接していただいたことに喜びを感じ素直に学ぶ気持ちになれたと思います。家庭や学校ではできない教育をしていただいた職場の人たちに感謝いたします。(保護者)
- ・職場体験は社会の基本ともいえる大切な部分であり、会社としても地域社会への貢献の意味でも今後も大いに協力してまいりたいと思います。(事業所)

### 6 成果

- ・働くことの辛さや大変さ、喜び、達成感などの感動を実感として得ることができました。
- ・あいさつや言葉づかいなどコミュニケーションの重要性に気づくことができました。
- ・将来の自分の姿を展望しながら、今の生活や学習を見つめ直すきっかけとなりました。
- ・地域の子どもたちを地域で育てていこうという気運が生まれました。



▲菓子店での袋詰め

▼GSでの窓ふき



### 7 今後の課題

- ・受入可能な事業所等の開拓
- ・地域、事業所等との協力体制の構築
- ・保護者、地域への職場体験の意義の啓発
- ・教育課程への位置付けの検討 (実施時期や総合的な学習の時間におけるねらいの設定など)
- ・事前、事後指導の充実と在り方の検討
- ・小中高連携したキャリア教育の在り方の検討及び全体計画の作成

5日間の職場体験をより意義あるものにしていくために、上記の課題解決を図りながら、今後も継続し、地域の中に浸透させ、地域ぐるみで進める活動にまで高めていきたいと思っています。

# 地域に開かれ、地域と一体感のある学校づくりを目指して

## ～ コミュニティ・スクール構想による学校変革 ～

大仙市立神宮寺小学校 教頭 小笠原 重 夫

### 1 はじめに

荒れ地(ダート)や雪道を走るには、2輪駆動車よりも4輪駆動車が適しています。

「学力向上」「いじめ・不登校」「安全・安心の確保」「新学習指導要領への対応」といった当面する教育課題を荒れ地に例えると、それを走破(克服)するために学校は、管理職と一般教員による前輪と、保護者と地域住民による後輪に支えられた4輪駆動車で対応が必要となり、それぞれのタイヤを連動させる取組が重要になります。

### 2 コミュニティ・スクール及び推進事業の概要について

本校は、平成19・20年度文部科学省コミュニティ・スクール推進事業の委嘱校として、子どもたちの豊かな人間性の育成を目指し、地域に開かれた信頼される学校づくりの在り方について調査研究を進めています。

コミュニティ・スクールは、「学校運営協議会制度」で運営される学校の総称で、「地域運営学校」とも呼ばれ、保護者や地域住民等が一定の権限と責任を持って学校運営に参画し、地域に開かれた信頼される学校づくりを進める新しい仕組みです。

本校では、2年間の委嘱期間で、本市でのコミュニティ・スクール導入に向けた「調査研究」活動を柱としながら、保護者や地域住民等を巻き込んだ「アクションプラン」を積極的に仕掛けることにより、地域住民等の参画による(つまり、地域住民からも汗をかいていただく)新しいタイプの学校運営を検討していく考えです。

### 3 調査研究活動とアクションプランの取組について

#### (1) 調査研究活動の主な内容について

- ①保護者・地域住民の教育活動への参画について
- ②学校資源の地域への還元について
- ③積極的な学校情報の公開・発信について
- ④学校関係者等による学校評価について

#### (2) アクションプランの主な内容について

- ①「地域の先生」の募集・「神小人財バンク」の整備・活用
- ②「おやじの会」の設立
- ③「あいさつ通り」運動の実施
- ④秋山仁氏によるスペシャル授業の実施
- ⑤ホームページの充実強化

### 4 これまでの成果と課題

#### (1) 成 果

##### ①児童の学習意欲の向上

本校は、これまで児童の学習意欲に関して大きな課題を抱えていました。

しかし、「地域の先生」等の外部人材の導入により、授業の活性化が進み、諸テスト・アンケート結果からも、児童の学習意欲において前年比で着実な向上が見られました。

##### ②地域の活性化への寄与

本校の「あいさつ通り」運動の取組が神岡地域全体で小旗を掲げ、あいさつ運動を推進するまでになり、その波及効果に驚いています。

#### (2) 課 題

##### ①地域人材の確保

「神小人財バンク」には、現在100人以上登録(団体含む)していますが、運営協議会を実際に動かしていける人や、時間を割ける人をどれだけ募れるかは、今後も大きな課題です。

##### ②地域人材を生かす授業づくり

「地域の先生」の活用は、食育、朗読・読み聞かせ、農林業体験や、理科、社会、生活、特活、総合などでしたが、来年度は算数での活用も考



「地域の先生」によるカワセミ営巣観察えています。

### 5 おわりに

現在、コミュニティ・スクールに指定されている学校は、全国で213校(H19.7月現在)で、全国的に見ると必ずしも広がりを見せているとはいえません。

その一因として、学校運営に対して外部から入り込まれることへの抵抗感が、依然として現場サイドにあるからと推測されます。

しかし、コミュニティ・スクール導入の如何に関わらず、学校が様々な教育課題を克服しながら、地域の学校として生き残るためには、「学校教育が、学校の中だけで完結する時代は終わった。」という意識を教職員がどれだけ持てるか、そして、どれだけ4輪駆動車の威力を発揮できるかに懸かっているように思います。

# わかる授業の創造

## 研究推進の核になった「班別研修」

大仙市立刈和野小学校 研究主任 田 口 雅 人

### 1 本校の研究計画

本校の19年度の研究計画の概略は次の通りでした。

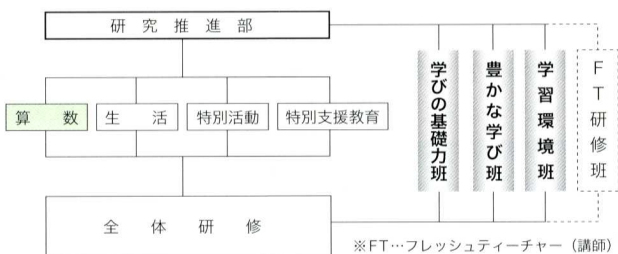
#### (1) 研究主題

豊かな学びをめざした授業づくり

#### (2) 研究内容

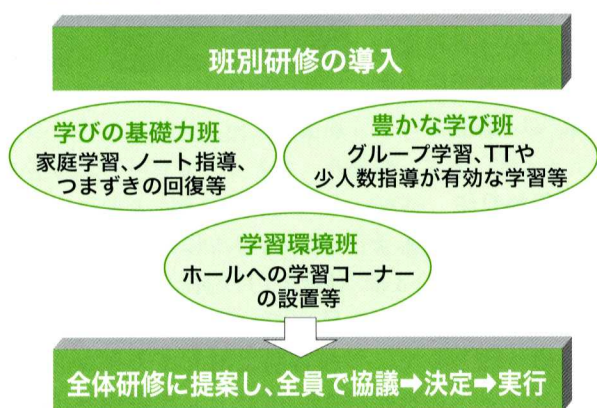
- ①豊かな学びの基礎力の育成
  - ・学習習慣の定着
  - ・基礎力を定着させるための徹底指導
  - ・家庭との連携の重視
- ②豊かな学びにつながる場の設定
  - ・1年間のカリキュラムのデザイン
  - ・教科ごと、単元ごとの「身に付けさせたい力」の明確化と評価規準の設定
  - ・学び合う場、表現する場の設定

#### (3) 研究組織



研究内容に合わせて、全体研修とは別に、3つの班別研修を組織しました。

### 2 班別研修の役割



全体研修だけだと、提案者が研究主任中心となり、他の職員の意識がどうしても受け身になってしまいます。年度当初、研究内容を検討する中で、学力向上のために重点化したい項目を共通理解していきました。その項目について、どんな取組をしていけばいいのかを協議し、全体会に提案するのを班別研修の役目としました。また、次のようにP-D-C-Aのサイクルを研究推進に取り入れました。

- 4、5月・・・研究推進の計画 **P**
- 5～7月・・・第1期授業改善 **D**
- 8月・・・第1期の成果と課題 **C**
- 8～12月・・・第2期授業改善 **A**
- 12月・・・第2期の成果と課題 **C**
- 1～3月・・・第3期授業改善 **A**

8月と12月には、全員アンケートをもとに、班ごとに成果と課題を協議し、全体会に改善策等を再提案してもらいました。

### 3 班別研修の成果

学びの基礎力班	豊かな学び班	学習環境班
<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝自習への7年部職員の配置</li> <li>・家庭学習の手引き作成</li> <li>・音読を全校で実施</li> <li>・つまずきの回復日設定</li> <li>・つまずきの引き継ぎのためのカルテ作成</li> <li>・ノート指導のモデル作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割分担を工夫したTT指導の積み重ね</li> <li>・少人数指導が有効な学習内容、場面の明確化</li> <li>・週1回、グループ学習の実践を記録</li> <li>・学習のめあての持たせ方を提案</li> <li>・「知識活用型」授業の提案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホールへの家庭学習コーナーの設置</li> <li>・ホールへの学習クイズコーナーの設置</li> <li>・算数オリンピックへの参加</li> <li>・漢字検定への参加</li> </ul>

定期的に成果と課題を明確にし、それを次の授業改善に生かすというサイクルを確立したことにより、各班の提案がより実践的、具体的になっていきました。最終的には、上のようなことが共通理解され実践されました。



ペアによる学び合い

### 4 終わりに



授業の打ち合わせ

職員一丸となってアイデアを出し合い、学力向上に取り組めた1年でした。その雰囲気は授業研究会での活発な協議にもつながり、研究会を経るたびに、授業改善が進んでいるという実感が持てました。職員の学校評価でも「はじめは大変だったが、慣れてくると生き生きとした研修の場に変わった」という意見が多く出ました。これが学校力の向上なんだな、と研究主任として大変うれしく思いました。

## English is Fun! Communication is Fun!

もっと知りたい 伝えたい ~思いや願いを広く伝え合う子どもの育成を目指して~

大仙市立南楯岡小学校 教諭 小林 秀子

### はじめに

Hello. My name is ○○. Nice to meet you.

「どの国のお客様にも、初めのあいさつはこれで通じるんだね。」

今、子どもたちは物怖じせずに、外国のお客様と話すようになりました。

国語を研究教科とし、国語の力を付けながら、人とかかわって伸びる子どもを育てようとする本校の取組は5年にわたります。その間、英語活動やキャリア教育の研究も進めてきました。

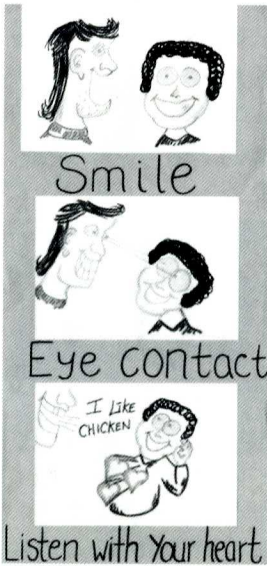
そして、平成19・20年度は「小学校における英語活動等国際理解活動推進事業（ファン・イングリッシュ推進事業）」の文部科学省指定を受けました。昨年も韓国の先生、ALT、CIR など十数人の外国のお客様をお迎えしましたが、それ以上に「子どもたちが、多くの国の人たちと出会い、触れ合い、コミュニケーションを楽しむことができるようにしたい。」そんな願いを持ちながら、次のような視点で、英語活動や国際理解活動の研究を進めました。

### 1 指導力の向上を図る

授業は、月ごとのテーマと言語材料をもとに年間計画を練り直し、毎週木曜日に行いました。手探りで授業を進めると同時に、全学級担任が夏休みのセミナーに参加したり、先進校（成田小、常磐小）の視察をしたりして、本校の授業実践と照らしながら研究の方向を見つけていきました。

活動内容を検討する前に、英語活動のねらい（何のためにやるか）に何度も立ち返りました。そして、コミュニケーションの素地づくりとして、○共生（思いやり）

活動内容を検討する前に、英語活動のねらい（何のためにやるか）に何度も立ち返りました。そして、コミュニケーションの素地づくりとして、○共生（思いやり）



○自己決定・行動力

○主体性（個の確立）を子どもたちにはぐくむことであるという理解のもとに取り組みました。

その一つとして、コミュニケーションのマナーを合言葉に、会話やかかわりを楽しむ子どもの姿を求めました。

### 2 多くの外国の人との会話を体験させる

#### (1) 毎週木曜日の英語活動



エバン先生とWhat's this?

CIRが毎週、ALTが隔週で担任とTTを組み、英語の音をシャワーのように浴びせてくれます。歌やリズムにのせた繰り返し、ジェスチャー、ゲームなどで子どもの心はほぐれ、授業を重ねるうちに「あいさつ」や「今日の表現」を自分で使おうとします。また、CIRやALTのスピーチに異文化への関心が高まります。

さらに、年4回、国際教養大学の留学生を招いてインタビューゲームを行いました。班ごとに、今まで学んだ表現を使って質問し、ゲストのことを紹介して得点を競います。知的好奇心がかりたてられ、意欲的にコミュニケーションに取り組みました。

#### (2) 国際交流 Day

年3回。韓国の子どもたちも来校し、ホームステイも実現しました。

日頃の英語活動で見つけた世界の扉を、また少し開く機会になりました。



国際交流Day メキシコのダンス

### 3 指導者のコミュニケーションを大切に

研修や授業実践と同じように、CIRやALTと子どもの変容を話し合うことを大切にしました。彼らは、私たちの未熟な英語をまさに「Listen with your heart.」で理解しようとしてくれますし、授業が終わると短い時間でプランを練り合ったり教材を作ったりしてくれます。担任には見えない子どもの変容を、言葉と文章で伝えてくれました。「子どもたちは自然な場面で、意味のある表現を使い始めていますよ。」「We are good team.」は、実にうれしい言葉でした。

### おわりに

今年、英語活動に取り組んで、子どもたちも教師も、豊かな体験を通して「この人ともっと話したい」「もっといろいろな国のことを知りたい」という意欲が湧くと同時に、自分のことや日本のことも伝えたいと思うようになりました。

今後も研究に努め、思いやりと国際感覚を持った子どもを育てたいと思います。

## ひっひと遊ぶ子どもたち ～特色ある園教育をめざして～

大仙市立みどり幼稚園 園長 伊藤葉子

### 1 和太鼓演奏を通して

5歳児を対象に和太鼓演奏を保育の一環に取り入れています。

「仙北太鼓」「高梨横堀小仙北太鼓ジュニア」の演奏を聞き、和太鼓の迫力に感動と憧れを持つ子どもたちです。

旧仙北町には、秋田県創作太鼓の原点といわれる「蘭導」というグループがあります。幼稚園でも、メロディー、発声（腹の底から思いっきり声を出す）、リズム（踊る）、ハーモニー（たたく）等、子ども本来の動きの要素を十分に取り入れています。

地域の人材を生かし、交流しながら、リズム感を育成するとともに、60人が心を合わせ、一つのことをやり遂げたという成就感を味わわせることが、子どもたちに自信を持たせ、物事に集中して取り組む姿勢にもつながっています。年長になると、太鼓をやれるという喜びを感じ、ダイナミックなリズム運動として行われています。

また、老人施設訪問、敬老式典等、町の行事やイベントに参加し、幼稚園を地域の方々に理解してもらう機会となっています。

### 2 親子ウォーキングを通して

国指定名勝である「池田氏庭園」は、四季折々に素晴らしい景観を見せてくれます。

親が常に忙しく、車社会の現代。父子の触れ合いの機会として実施しています。父親とぎっしり手をつなぎ、手の大きさ、強さ、逞しさ、ぬくもりを肌で感じ、秋の自然を満喫しながら、ウォーキングを楽しんでいます。

往復4キロの道のりを、3歳～5歳児全員が目的地まで到達できます。親自身が日頃気づかない我が子の体力の成長に目を見張っています。

園に到着し、自分たちが植えて収穫した「ほっかほかの焼きいも」をほおぼる親子の姿は何ものにも代え難いものです。



◀和太鼓演奏



▶親子ウォーキング

## 中・高連携を目指して

大仙市立中仙中学校 教諭 阿部光教

これまでの本校における中学校と高校との関係と言えば、受検や生徒指導に関連した事務的な関係が主流でした。しかし、「心豊かな生徒の育成」という大きな目標に近付くには、やはり「未来を見据えた指導」という観点からも高校との連携は不可欠といえます。今年度、その一歩として大曲高校との連携の機会を得ました。「連携」まではまだほど遠い状況ですが、今年度は次のような連携（交流）の視点により進めてみました。

### 1 授業の連携（高校の教師によるより専門性を高めた授業演示）

○実践例：「書写」における授業

### 2 研修の連携（指導力向上を目指した主として指導主事訪問時の研修参加）

○実践例：高校での研修（「数学」「社会」「美術」「音楽」「英語」「総合的な学習における図書館利用」）

○実践例：中学校での研修（「国語」「数学」「社会」「美術」）

### 3 キャリア教育の連携

○実践例：高校の進路講演会へ参加

### 4 生徒会活動の交流

○執行部間の交流を予定しましたが、高校との時期が合わず来年度の課題となりました。ただ、双方の生徒会活動状況についての情報提供は実施しました。

### 5 部活動の連携

○合同練習という形で夏季休業中に実践（「バレー部」「造形部」）



授業風景「書写」



授業研究会の様子

今年度は連携に係る生徒の実際に関わりが少なく、内容も連携の効果もこれからの課題となりました。今後、生徒にとって、そして教師にとって次に活かせる連携となるよう、小学校との連携とともに他の高校も視野に入れながら普段着の実践となるよう進めていきたいと考えています。

## 大仙市中学生サミット ～「おはようプロジェクト」を中心に～ 大仙市教育研究所

### 1 事業概要とねらい



大人と子どもが協力しながらよりよい地域・大仙市を築いていくための意識の醸成を目指し、平成19年度にスタートした「こころふれあうさわやか大仙」事業の一環として「大仙市中学生サミット」を開催しました。その後、各中学校生徒会が輪番制で推進役を務め、この1年活動を進めてきました。

### 2 今年度の活動の実際

#### (1) 「中学生サミット」の開催

平成19年7月4日(水)、市内12中学校の生徒会長による「大仙市中学生サミット」を開催し、次の2点を決定しました。

- ・あいさつ向上を目指し、「おはようプロジェクト」を実践する。
- ・秋田わか杉国体が開催されることから、各校が学校や地域の特色を生かして歓迎のための取組を行う。

なお、広く市民にあいさつ向上を呼びかけるためのテレビCM制作を決定。各中学校でCMを制作し、夏季休業中に地元テレビ局より15回放映されました。

大人と子どもが協力しながらよりよい地域・大仙市を築いていくための意識の醸成を目指し、平成19年度にスタートした「こころふれあうさわやか大仙」事業の一環として「大仙市中学生サミット」を開催しました。その後、各中学校生徒会が輪番制で推進役を務め、この1年活動を進めてきました。

### (2) 「おはようプロジェクト」の取組

① 2ヶ月程度を目途に、3つの中学校が輪番で実践テーマ、共通実践事項等を提案し、それに基づいて市内小・中学校が足並みをそろえて実践しました。

- 第1回「あいさつの花を咲かそう」
- 第2回「あかるく いつもの人に さあ つたえよう」
- 第3回「あいさつで地域と国体めぐだまる」
- 第4回「毎日続けるあいさつで 雪も寒さも吹き飛ばせ」
- 第5回「あいさつで咲かそう、笑顔の花」

② 活動計画書を各小・中学校に配布するとともに、ポスター約500枚を制作し、市内幼稚園・保育園、学校、関係機関、事業所に掲示し、協力を呼びかけました。

③ 実践期間終了後、担当校が報告書の取りまとめを行い、次回担当校に引き継ぎました。

### 3 成果と課題

- ・各校において、これまで以上にあいさつ向上を意識した取組が継続的に行われました。
- ・市内12中学校が足並みをそろえ実践することにより、大仙市の学校としての一体感が向上しました。
- ・校内でのあいさつに加え、近所の人や顔見知りの人をはじめ、校外におけるあいさつも向上してきました。

今後は、あいさつに限らず様々なテーマを設定し、中学校区単位に小・中学校の連携をいっそう深め、地域への発信や保護者・地域住民との連携を継続しながら、各地域に根ざした地道な取組を展開していきたいと考えています。



## 大仙市立中学校生徒海外派遣事業 ～中学生20人の見たオーストラリア～ 大仙市教育研究所

### 1 事業概要とねらい

- ・毎年約20名の大仙市の中学生をオーストラリアに派遣する事業であり、渡航費用の約半額を市が補助しています。
- ・日本と異なる文化に触れる経験等を通して、国際感覚を養うとともに国際理解を深め、将来、地域の振興に寄与する人材を育成することをねらいとしています。

### 2 事前学習会

海外研修への意欲づけ・意識づけを図るため、また派遣生相互の親睦を深めるために計3回の学習会を行いました。

第1回 11月16日(金)

CIRによるオーストラリアの文化紹介および自主研究テーマの設定

第2回 11月30日(金) 英会話教室



市のCIRジュード先生・ALTエバン先生の他に県のALTダニエル先生(大曲高校)・レナート先生(大曲農業高校)も協力してくださいました。

第3回 12月27日(木)

ホームステイ先での日本文化の紹介活動についての話し合い及び結団式

### 3 オーストラリア研修

- ・期間：平成20年1月5日(土)～1月13日(日)
- ・研修先：オーストラリア(ケアンズ方面)

- ・主な研修内容：マンガリーフォルズでの野外研修及び学生交流、ファームステイ、グリーン島での研修、キュランダ鉄道・レインフォレステーションでの研修等



マンガリーフォルズのカフェで

### 4 事後活動

- ・研修レポート作成：自主研究テーマを中心にした内容でA4版4枚程度のものを各自作成。「研修報告書」として冊子にまとめたものを、派遣生徒と全中学校に配布しました。
- ・報告会および解団式：平成20年1月28日(月)神岡農業改善センターにて、9日間の研修の様子を4グループに分かれて報告しました。

### 5 成果と課題

(成果) オーストラリア研修期間中は異文化への新鮮な驚きや発見の連続ですが、同時に、1週間以上の期間を家族や日本から離れて生活することで、家族の有り難さを再認識したり日本の文化や日常の自分たちの生活を見直すきっかけにもなっています。

(課題) 研修の成果を「大仙市のために」「学校のために」という両方の視点でいかに還元していくかが課題です。

■生徒アンケートより「自分たちの“あたりまえ”が他の国では違うことを知った。これでいいのか疑問に思う心と他人(他国)を尊重する心を持っていきたい」

# 平成19年度 教育研究所のあゆみ

## ～課題の把握と改善の方向性を探って～

### 1 課題に応じた研修会の内容から

#### (1) 生徒指導研修会「いじめ問題への対応」

いじめ問題への対応には、早期発見と即時対応の組織的な取組が必須です。しかし、その未然防止のために集団内で自己有用感を味わわせる絆づくりを日常的に行うことが最も基本的なことです。それは、いじめ問題が子どもの人間関係形成能力の低下に起因することが多いからです。また、ネット等によるいじめ問題も増加しており、その実態を把握し、モラルを高めることも教育課題です。そのために、子どもとの日ごろのかかわりの場面を今まで以上に大切にしたいものです。

#### (2) 学級経営研修会「人間関係づくり」

学校経営は学校教育目標を具現化するものです。したがって、めざす姿をより明確にしたP-D-C-Aのサイクルによる取組が基本です。また、学級経営上の今日的な中心課題に、子どもに人間関係形成能力を育むことがあります。そのために、学級集団の状況を把握する検査や、関係を構築するスキルを高めるプログラム等が開発され、各学校において活用されています。その成果と教科等で培った力を生かしながら、話し合い等の活動を充実させ、意欲ある学級風土を築きたいものです。

#### (3) 研究主任研修会「学習指導の改善」

中教審の答申等により、今後求められる学力が明らかになりました。つまり、基礎・基本の知識と技能の確実な定着を図ることと、思考力や表現力等の知識を活用する力の育成が課題です。この活用する力は、教科横断的で実学的なものであり、特定の教科において身に付けさせるものではありません。各教科の目標を達成しつつ、学校教育活動の全体を通して、いかに身に付けさせるか研修を深めることが必要です。そして、取組上の視点は自校の課題を共有し、実践の重点化を図って、具体的に組織的に、検証しながら進めることにあります。



### 2 学力向上に関する取組から

#### (1) 学力・学習状況調査等の分析と情報提供

全国や県の学力・学習状況調査の結果から、本市の児童生徒は概ね満足できる学力を有し、基本的な生活習慣等が身に付いていることがわかりました。これは、各学校が家庭や地域との信頼関係を基盤に、熱心な指導を進めていることによるものです。

課題は、基礎学力の確実な定着と活用の力の育成です。特に、活用の力の育成には、身に付けたい力と学習指導の改善の視点を明確にした組織的な取組が求められます。また、家庭での学習や過ごし方にも課題が見られ、指導を工夫する必要があります。

#### (2) 学習定着度調査の実施

大仙市独自の学習定着度調査は、基礎学力の向上と学習指導の改善を目的に12月12日に小4から中2の学年で実施しました。その結果、全国(4月)や県(7月)の学力・学習状況調査に比べて学力の底上げがみられ、設問ごとに予め設定した期待正答率よりも概ね満足できる状況でした。しかし、つまづきやすい分野や傾向も明らかになり、結果を個々に分析する必要があります。教育研究所としては、分析結果とともにフォローアップシートを作成し、指導改善の資料として情報提供に努めたところです。

### 3 学校訪問の実施から

#### (1) 教育委員会訪問

各学校における実践の充実に資するために、授業づくりや研究推進体制などで特色ある取組をDEネットで紹介しました。今後も学校の実情と課題を把握し、改善の方向性を探っていきたいと思います。

#### (2) 指導主事訪問

調和のとれた子どもの育成を目指した意欲的な実践が数多くあります。しかし、優れた実践にも課題はあり、成果とともに課題を明確に把握することが研修の充実に結びつきます。今後も、今日的な課題も踏まえた工夫ある実践を推進したいものです。

発行 大仙市教育研究所

〒014-0053 秋田県大仙市大曲花園町4-88  
TEL 0187-63-9400 FAX 0187-63-9401  
E-mail om-kyouken@edu.city.daisen.akita.jp